

コージェネシンポ07 新たな分散型モデル提案

バイオマスや燃料電池など

日本コージェネレーションセンター主催の「コージェネレーションシンポジウム2007」が12月5、6日の両日、東



あいさつする平田賢会長

京・大手町の経団連会館で開かれ、2日間で800人を超す参加者が集まった。今回のシンポジウムではバイオマス発電や燃料電池などを中心に、最新の技術動向が紹介された。

井熊均・日本総合研究所創発戦略センター所長は特別講演で、原油価格の高騰でエネルギー転換の必要が迫られる中、資

源の少ない日本に最も合

う燃料として、静脈(廃棄物系)バイオマスを挙げた。「バイオマス事業が本格化すれば、収集エリアの面からもオンサイトが効率がいい。そうすれば分散電源事業のニーズは高まるだろう」と、新たな事業展開の可能性についても言及した。バイオマス関連の技術開発では、中部電力が木

質バイオマス燃料のスタートリングエンジン実証試験について紹介。

燃料を選ばず小規模な設備でできるが発電コストが高く、エンジンに灰が付着し出力低下の原因になるなどの課題もあるとした。

また東京ガスでは、03年度から取り組んでいる海藻バイオマスプラントの実証で実用化にメドをつけ、事業化に向けた動きを進めていることを発表した。

一方、燃料電池では家庭用固体酸化物型燃料電池(SOFC)の実証事業を今年度から実施しているNEDOが、事業概

要を説明した。採択された29台のSOFCは関西地区を中心に設置を進めており、来年1月には本格的な実証運転を開始する予定という。

そのほか、三菱重工業はSOFCとマイクロガスタービンを組み合わせた200キロワット級コンバインドシステムの実証で安定運転を確認できたため、商用化に向けシステム改善を行い、100キロワット級の発電プラントの開発を目指すと報告。大阪ガスは集合住宅での水素供給燃料電池コージェネ実証について、住棟全体の1次エネルギー消費量を10%削減できたとした。